



## 糸島産イノシシソーセージの試食イベントを開催 ～平成 23 年度糸島市九州大学連携研究助成事業における研究成果を発表～

### 概要

農学研究院の若手助教らで結成されたプロジェクトチームは、糸島産のイノシシの肉質分析と加工品製作に関する研究を行い、研究成果の一部としてイノシシ肉のソーセージへの加工を行いました。このたび、一般市民の皆様にもイノシシ肉への親しみと農村での問題に関心を持ってもらうことを目的として、このソーセージの試食会を開催します。

日時：平成 24 年 4 月 13 日（金） 10:00～12:00

会場：福ふくの里（糸島市二丈）

### 背景

近年、日本の中山間地域の農村集落では野生鳥獣による農業被害が深刻な問題となっています。高齢化や担い手不足の影響で里山の放棄、耕作放棄地の増大など里山の管理不足が進んだことにより、獣害が増大したと考えられていますが、現在では鳥獣被害による、収入減、ひいては耕作意欲の低下など同地域農業の衰退に拍車をかけており、農村の存続危機に直面するほどの深刻な問題となっています。特に、イノシシによる被害は年間50億円前後と言われており、福岡県のイノシシによる農業被害額は平成22年度に約5億7千万円と報告されています。

平成 19 年に農水省から「野生鳥獣被害防止マニュアル」が発行され、平成 20 年に「鳥獣法」が施行され、罠や柵、獣肉処理施設の設置に補助金を出す対策を行っています。農地を守るための柵の導入により被害対策は進んだと考えられ、また、罠の増加や行政による報奨金により駆除や狩猟による捕獲数も増加傾向にあります。捕獲された野生獣肉は廃棄するのではなく食肉資源として有効活用が望まれています。しかし、獣肉処理施設の設置が各地で進みましたが、獣肉に対する一般消費者の知識は不足しており、今現在では安定した消費は期待できません。日本人の間に「安全・ヘルシーな」野生獣肉を好んで食す文化が育てば、捕獲した獣肉の流通の道も開けるだろうと言われており、科学的な見地から獣肉の研究が進むことが望まれています。

### 内容

本学農学研究院の若手助教らで結成されたプロジェクトチームは、平成 23 年度の糸島市九州大学連携研究助成金を受けて「糸島産イノシシ肉の有用性評価による農村集落活性化」と題し、糸島産イノシシの肉質分析と加工品製作に関する研究を遂行してきました。アミノ酸組成や脂肪酸組成などの栄養特性と、固さや加熱損失等の物理特性について分析・検討を行い、イノシシ肉のソーセージへの加工を行いました。

糸島産イノシシソーセージの試食イベント

日時：平成 24 年 4 月 13 日（金） 10:00～12:30

場所：福ふくの里（糸島市二丈福井 6333 TEL：092-326-6886）

### 効果

研究成果を広めることで、イノシシ肉の有用性を正しく消費者に理解してもらい、農村地域の獣害の現状を理解してもらうとともに販路の拡張が期待されます。

#### 【お問い合わせ】

大学院農学研究院助教 丸居 篤

電話：092-642-2271

FAX：092-642-2209

Mail：marui.atsushi.281@m.kyushu-u.ac.jp

糸島市農林振興課農林振興係 大櫛邦生

電話：092-332-2087

Mail：ogushi.k.817@city.itoshima.lg.jp